

教科	道徳（小・中）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 道徳科の授業の「量的確保」と「質的転換」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 量的確保…年間35（小1：34）時間が確実に確保されること ② 質的転換…指導と評価の一体化を充実させること <p>(2) 各学年の内容項目に関する体系的な整理と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校の内容項目に、「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」を追加した。 ② 小中学校学習指導要領に記載されている各内容項目の「指導の要点」を熟読して、「その学年（年齢）ならではの」発達の特性や課題を把握し、児童生徒の実態分析や教材分析、発問構成等に生かす必要がある。 指導する当該学年ばかりでなく、隣接する児童生徒の発達の特性や課題も押さえ、類似と相異を確認する。 <p>(3) 質の高い多様な指導方法を取り入れた授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 質の高い多様な指導方法の例示として、ア「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」、イ「問題解決的な学習」、ウ「道徳的行為に関する体験的な学習」が挙げられている。『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の「教師の主な発問例」等を参考に、指導の具現化を図る。 ② 例示された指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示すわけではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。今後は多様な指導方法に基づいた授業実践の積み重ねが求められる。 ③ 主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや、読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導、望ましいことを言わせたり書かせたりすることに終始する指導などに陥らないよう留意することが必要である。 <p>(4) 教科書教材と地域教材の効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科書の使用義務（学校教育法第34条「…教科用図書を使用しなければならない」※中学校にも準用）を踏まえ、組織的・計画的な指導を行う。 ② 主たる教材としての教科書教材と副教材としての「ふくしま道徳教育資料集」等の地域教材をどのように配当するか、各学校で工夫する。 ③ 東日本大震災から相当年数が過ぎつつある今だからこそ、当時のエピソードを大切に後世に語り継ぎたい。 ④ 教科用図書以外の教材を使用するにあたっては、「学校における補助教材の適切な取扱いについて」（平成27年3月4日付け 文部科学省初等中等教育局通知）など、関係する法規等の趣旨を十分に理解して適切に使用することが重要である。 <p>(5) 全体計画と別葉の充実と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各教科等における道徳教育の指導の内容及び時期等を一覧できるもの、家庭や地域との連携等が分かるものを作成し、活用する。 ② 別葉作成上で大切なことは次の2点である。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか、分かること ○ 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること 	

出典：福島県教育委員会「令和4年度 福島県小・中学校教育課程研究協議会資料」

「深い学び」を具現する授業デザイン例 道徳（中）

学習指導要領における領域・内容

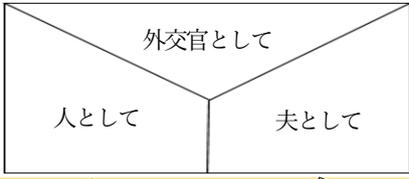
中学校 〔第2学年〕 C-18 【国際理解、国際貢献】
 主題名 〔垣根をこえて〕 教材名「六千人の命のビザ」(『新しい道徳 2』東京書籍)

本時のねらい

世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする心情を育てる。

教材について

第二次世界大戦時、ヒトラー率いるナチス・ドイツは、ユダヤ人を迫害します。その迫害から逃れるため、ユダヤ人の一部は、隣国リトアニアに逃げ込みます。しかし、ソ連侵攻のためリトアニアにもいられなくなり、安全な地へ渡航するために必要なビザを求め、日本領事館に押しかけます。その当時外交官だった杉原千畝氏は、外務省の許可を得られぬまま、国外退去するまでの約一か月の間に、約六千人分のビザを発行し、ユダヤ人の命を救いました。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>視点①・⑥</p>  <p>もし見捨てたなら、日本の外交官はユダヤ人を見殺しにしたと、指摘されるかもしれない。</p> <p>人として助けを求めている人を見捨てられないと思う。</p> <p>ユダヤ人という理由で迫害するというのは、友好国のドイツがしていたことだとしても同意できないよね。</p> <p>視点②・⑩</p> <p>生徒のワークシートより</p> 	<p>学習者の視点</p> <p>杉原さんにはどのような悩みがあったのでしょうか？</p>  <p>日本の外交官として、指示を守る責任があるよ。ビザを書いてあげたいけど、書けない。</p> <p>自分が助けられたかもしれない命を見捨てたら、妻にとってもつらいことかもしれない。</p> <p>家族の思いを無視できないよ。立場や生活が危うくなるかもしれないし、身の危険もある。</p> <p>いろいろな立場はあるけれど、立場を超えた共通の願いもあるはず・・・。</p> <p>Y字チャート (思考ツール)</p> 	<p>授業者の視点</p> <p>視点C・L</p> <p>もし、外務省の命令に従ったら？</p> <p>一緒にいた杉原さんの夫人は、何を思っていたら？</p> <p>視点M</p> <p>大使館の外で待つユダヤ人は、何を思っていたら？</p> <p>杉原さんがビザを書くことを決めたのはなぜでしょう？ (中心発問)</p> <p>杉原さんの生き方から学んだことは何ですか？</p> <p>視点S</p> <p>※ 事前の教材研究の際に、【国際理解、国際貢献】の内容項目の概要と指導の要点を把握し、本時のねらいにせまることができるようにする。</p>
<p>・ 人命を救うために自分ができることを真剣に考え、覚悟ある行動だった。私も、自分ができることについての考えをもつだけでなく、実現に向けた勇気をもてるようにしたい。</p> <p>・ 行動一つで、日本への見方が決まることもあると思う。杉原さんは、人命を大切にされたからこそ慕われている。もし自分だったら、そんな重い決断ができるとは思えない。でも、人として分け隔てのない命の重さは大事にしたい。</p>		

本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

- 「Y字チャート」(思考ツール)を活用し、杉原氏の葛藤等を整理した上で、中心発問を投げかける。このことにより、教材をもとにした価値理解、人間理解、他者理解について多面的・多角的に思考させることができ、深い学びが期待できる。授業では、国際社会において日本人だけに求められるものではない道徳的価値について生徒が気づくことができるように、板書等を活用して整理したい。(視点S→視点⑩)